

特集 人ではぐくむ 浦安っ子

浦安市では「未来に向かって夢を持ち、豊かに生きる浦安っ子の育成」を基本理念に学校・家庭・地域・行政が連携して教育活動に取り組んでいます。今回は特集として、学校の内外で浦安っ子の成長を支えている人にスポットをあて、その活動を紹介します。

ALT(外国語指導助手)

浦安市独自で市立全小中学校に派遣

Pinky Kimura先生
子どもたちが
世界に向けて
力を発信して
いけることを願って



少人数教育推進教員

浦安市独自で市立全小中学校に配置

笹部 由佳子先生
きめ細かな
指導をめざして



学校司書

浦安市独自で市立全小中学校に配置

小林 福子さん
「本の輪」を
広げて
学習を支える



理科支援ティーチャー

市立小学校6校に配置

大野 里枝先生
子どもたちの
発見が
やりがい



浦安市では、文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、小学1年生から外国語活動を実施しています。

ALTは、子どもたちが外国の文化に触れ、外国語(英語)に慣れ親しむことにより、コミュニケーション能力を高めることや、小学生が中学校での英語学習になめらかに接続できるよう学びを支えています。

インタビュー

英語に興味関心がもてるように、授業にチャンツ(言葉をリズムに乗せて表現)、インタビュー、ゲームなど様々な活動を取り入れています。

廊下ですれ違う児童が、習った英語の歌を楽しそうに口ずさんでいる姿を見ると、微笑ましく、嬉しい気持ちになります。授業以外にも、英語に慣れ親しみたいと思う子どもたちの気持ちを大切にしたいと思っています。

授業中は担任の先生方と協力し、楽しく一緒に活動することを大切にしています。担任の先生方と一緒に活動することで、より児童のことを知ることができ、授業のアイデアを共有することで新しい発見も増えます。

子どもたちには、将来、日本のみならず世界に向けて自己表現ができる人になってほしいと願っています。

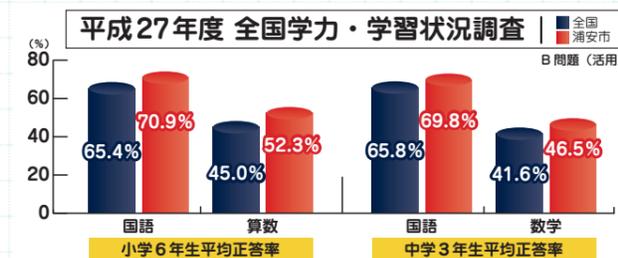


少人数教育推進教員は、子どもたちを少人数集団できめ細かく指導するために、実態に合わせて、チーム・ティーチングや少人数指導、習熟度に応じた指導などを実施し、わかる授業・できる授業を支えています。

インタビュー

教室に教員が2人いることで、単純に1+1=2ということではなく、2人いることで、生徒をサポートしながら、より多くの能力を引き出すことができると思いながら授業を行っています。学習が遅れがちな生徒には理解できるようにサポートし、進んでいる生徒には能力をさらに引き出せるようにと思っています。

*チーム・ティーチング…複数の教員が役割を分担し、協力しながら指導する方法。



学校司書は、子どもたちの読書活動や学習の支援を行い、「読書好きな浦安っ子」を支えています。

インタビュー

学校行事・部活・テスト等で忙しい生徒たちが、時間のある時に図書館に来られるように、いつも自分がいて図書館が開いている状態であるように心がけています。

選書は、生徒たちの顔を思い浮かべながら行いますが、その本を、生徒同士で「この本おもしろいよ」とすすめ合い、「本の輪」が広がっている様子を身近で見られることがとても嬉しいです。ジャンルにとらわれない本の紹介を通して、本好きな生徒を増やしていきたいです。

調べ学習に使う資料は、生徒のニーズに合わせて選んだりクラスで偏りがないように分けたり、他校や中央図書館から借りたりして揃えています。担当の先生から、「良い資料を揃えてくれてありがとう」という言葉をいただいた時などが、嬉しくやりがいを感じる瞬間です。



▲学校司書のアドバイスを受けて保育園児への読み聞かせ

理科支援ティーチャーは、理科学習の充実・推進のために配置され、スムーズに観察・実験等ができるように準備や片付けをはじめ、学習の指導を行います。薬品を扱う実験などでは、子どもたちが安全に授業を行えるようアドバイスや支援を行い、学力向上を支えています。

インタビュー

この仕事をして一番嬉しいことは、子どもたちが困っているところに支援に行き、「あ!そうか!」「わかった」「うまくできた」と言われる時です。他にも虫捕りをしたり、図書館で課題解決のために一緒に調べたり、子どもたちの成長に関われることも嬉しいです。

また、理科の授業で指導している先生から「予定通りに進められた」「子どもたちが安全に実験できた」などと言ってもらえた時も嬉しいです。いつも安全に実験を行えるように考えながら準備しているの、自分の活動が報われたなあと実感できます。

